

チャペル週報

No. 20

2012 .10.29～11.2

神はわたしの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。

(詩編46編2節)



神戸三田キャンパスI号館

関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

10月29日(月)神 南 部 正 人 (神学研究科M2)

経 人間を考える① 中 川 慎 二 (経済学部教授)

人 嶺 重 淑 (宗教主事)

聖和 聖書物語「ベタニアの姉妹・しんせつなサマリア人」

10月30日(火)神 田 部 朋 彦 (神学研究科D3)

文 山 内 一 郎 (関西学院名誉教授)

社 社会学部学生交流プロジェクト

法 音楽チャペル バロック・アンサンブル

経 人間を考える② 舟 木 讓 (宗教主事)

商 山 本 俊 正 (宗教主事)

国 神 余 隆 博 (副学長・国際戦略担当)

聖和 カルト宗教について考える (ビデオ)

総 インドネシア交流セミナー参加者

10月31日(水)神 <宗教改革記念日礼拝> 中 島 純 (神学研究科M1)

社 動詞シリーズ「生きる」⑨ 岡 田 弥 生 (社会学部教授)

法 「宗教改革記念日 ミレニアム開発目標V」 Christian M. Hermansen (宣教師)

経 English Music Chapel Timothy Dale Boyle (宣教師)

商 広 瀬 憲 三 (商学部教授)

人 音楽チャペル バロックアンサンブル

国 宗教改革をおぼえて 平 林 孝 裕 (宗教主事)

聖和 実習報告「保育園実習を終えて」

理 「想い出のウイーン少年合唱団」 松 木 真 一 (宗教主事)

総 毛 利 和 義 (千刈リーダーズクラブ、宗教総部チャプレン)

11月1日(木)聖和 亡くなった方を覚えて「上谷潤子先生を偲んで」 お話：加藤庸子 (聖和大学幼児教育学科卒)

11月2日(金)聖和 田 淵 結 (教育学部宗教主事)

◇ランバス早天祈祷会 毎金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂 (上ヶ原)

11月2日(金)教育学部のために 長 島 礼 (教育学部専任講師)

マルティン・ルターと聖遺物

土 井 健 司

フルッチョ・ブゾーニという大ピアニストは、たとえばベートーベンを演奏するときはその曲がベートーベンの時代に響いていたように弾かないといけなかったそうです。ブゾーニの録音はほとんど残っていないので、具体的に分からないのが残念なのですが、これは歴史というものを考えるさいにも大事なことだといえます。

現代からではなく、その時代のなかで見たときに、宗教改革とは一体何だったのでしょうか。最近、秋山聡著『聖遺物崇敬の心性史』のなかにおもしろいことを読みました。

聖遺物とは、カトリック教会にみられる聖人の身体の一部、所持品などであって、とくに中世ヨーロッパで発達した宗教文化です。呪術的なところもあるのですが、人びとは先を争って聖遺物のまわりに群がり、贖宥など、ご利益を得ようとしたといえます。

ドイツのヴィッテンベルクでは、教皇ユリウス二世の後押しもあって、1510年ごろから所持する聖遺物の数が格段に増えていきます。1509年には5005点あったところ、1520年には19013点もの聖遺物を所持することになりました。1517年10月31日にマルティン・ルターがヴィッテンベルク城教会の扉に「提題」を張り出したときは、他方で領主が聖遺物を収集していた時期に重なっていたのでした。ルターの「提題」は聖遺物収集を問題視したものではありませんでしたが、宗教改革を受け入れることは、聖遺物収集を断念することを意味しました。結果として、贖宥のため聖遺物の展覧会を楽しみにしていた人びとの期待を裏切ることになったといえます。事実1521年になるとヴィッテンベルクの聖遺物の展覧会にも改革の余波が及び、その数年後に展覧会はなくなり、聖遺物も売却され散逸したようです。

信仰義認という考え方が、聖遺物を観ることで贖宥が得られるという期待を空にしまったわけです。改革は何らかの犠牲をかならず伴うもののだといえるでしょう。ただしこの改革が受け入れられたのは、同時に、たとえばエリザベートが使った「グラス」など聖遺物というものの虚偽をうすうすみんなが感じていたからではないでしょうか。ひとつの神学思想が社会に影響を及ぼすという特異な現象は、その神学の真理だけでなく、先験的な社会的支持があったからこそ可能であったのだと思います。

(神学部教授)

●2012年度 人権教育研究室研究部会公開研究会

メインテーマ：「今ここにある『貧困』の現実」

パート1 「若者」を取り巻く現場から考える

トークセッション

と き：11月16日(金) 15:10～18:00

ところ：関西学院会館「風の間」

発 題：佐野章二氏（『ビッグイシュー日本』代表）

肥下彰男氏（大阪府立西成高等学校教諭）

川口加奈氏（『Homedor』理事長）

パネル展示（『ビッグイシュー日本』、『Homedor』活動紹介）

と き：11月12日(月)～11月16日(金)

ところ：関西学院大学図書館エントランスホール

パート2 サンフランシスコにおける貧困・ホームレス・HIV ― 現状とケア体制 ―

と き：11月30日(金) 9:00～10:30

ところ：関西学院大学図書館ホール

講 師：Barry D.Zevin氏（医師）

通訳あり

●ランバスチャペルアワー

学部の枠を超えて集まった学生たちが企画するチャペルがランバスチャペルアワーです。秋学期の予定は以下のとおりです。

11月20日(火)

ランバス記念礼拝堂（上ヶ原）にて、10:35～11:05

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎週金曜日にチャペルアワーを実施しています。（18:00～18:20 1405教室）

11月2日(金) 田淵 結（教育学部宗教主事、宗教総主事）

11月9日(金) 樋口 進（宗教センター宗教主事）

11月16日(金) 田淵 結（教育学部宗教主事、宗教総主事）

11月30日(金) Andreas Rusterholz（文学部宗教主事）

●関西学院会館の日曜礼拝

授業期間中の第二第四日曜日に、教職員と学生有志による礼拝が行なわれます。一部英語を用いるバイリンガル形式です。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

11月11日(日)、25日(日)

いずれも関西学院会館ベーツチャペルにて、10:00～11:00

●第192回ランバス演奏会のご案内

「パーセル&キャロル」

平井満美子（歌）、佐野健二（リュート）

演 目：夕べの賛歌、美しい島、さよなら美しい人、リュートブックララバイ、ほか

と き：12月6日(木) 17:00開演

ところ：ランバス記念礼拝堂（西宮上ヶ原）

主 催：関西学院宗教センター <入場無料>

平井満美子と佐野健二のデュオは世界でも数少ないルネサンス、バロックリュート歌曲のスペシャリストです。現在までに発売されたデュオCD全ては雑誌「レコード芸術」の推薦盤に選ばれ、デュオリサイタルに対しては「大阪文化祭本賞」を受賞するなど各方向から注目されています。

●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

恒例の関西学院最大のクリスマスページェントが大阪のザ・シンフォニーホールで開催されます。参加費はチャリティーとしてアジアにおける奉仕活動などのために献金させていただきます。

開催日時：12月21日(金) 17:30開場 18:30開始

参加費：2000円

チケット販売：関西学院大学生協／チケットぴあ／ザ・シンフォニーホールプレイガイド

発売開始日：11月1日(木)